

2013年度一般研究助成

非行少年の将来認知の特徴を踏まえた保護観察における 関与のあり方

研究代表者 羽間 京子 (千葉大学)

➤ 研究の概要 (助成開始時)

我が国では、近年、再犯・再非行率が上昇を続けており、特に、少年の再非行対策が喫緊の課題となっている。非行少年への処遇のうち、とりわけ、社会内処遇である保護観察では、再非行防止のための自立支援が重要な課題である。そして、より適切な関与のためには、非行少年の将来に対する認知や希望（以下、「将来認知」）の特徴を十分に踏まえる必要がある。本研究の目的は、少年の保護観察対象者の将来認知の特徴を明らかにし、再非行防止に向けたより実効性のある保護観察処遇のあり方を論考することにある。

具体的には、①少年の保護観察対象者と一般の高校生を対象に、将来認知に関する質問紙調査を実施し、②保護観察の処遇者である保護司を対象に、処遇場面で保護司が念頭に置く将来認知等に関する質問紙調査を行う。本研究は、上記①②の調査結果の比較分析を通して、1)少年の保護観察対象者の将来認知の特徴を明らかにし、2)非行少年の将来認知と、処遇者の将来認知の相違の有無などを明らかにして、3)将来に向けた堅実な生活設計を立てる力を涵養し、再非行を防止するための、より実効性のある保護観察処遇のあり方を具体的に明らかにする。

➤ 選考委員会からのコメント

再非行・再犯少年の動向調査から再非行少年率は平成9年を底として、翌年から毎年上昇を続けている(犯罪白書24年版)。このような時期において再犯防止のための有効な保護観察のあり方、特に少年と保護司の関係性に注目した研究の意義は大きい。